



# ICHIKAWA H.S. NEWSLETTER

AGENCYの育成を  
目指す縁学年通信

VOL.25  
8 JAN, 2026

## HAPPY NEW YEAR!!

2026年の幕開けです。今年もどうぞよろしくお願いいたします。年末に荒井家に新しい家族が加わりました。湊凪（みな）ちゃんです。クリスマスに無事生まれててくれました。「みなどのように人を引き付ける魅力ある優しい人」になってくれたらという思いで命名しました。

さて、みなさん冬休みはいかがでしたか。私は三女が生まれたこともあり、とにかく忙しい毎日でした。毎日姉たちを公園に連れて行ってから、夕方から夕飯づくり。料理はあまり得意ではないですが、やり始めると案外楽しいもので昨日は有田先生の教える元、七草がゆを作りました。七草がゆは、春の七草を入れたおかゆを食べ、一年の無病息災を願う日本の伝統行事です。お正月のごちそうで疲れた胃腸を休めるという意味もあり、昔の人の生活の知恵が詰まった文化だと言えます。豪華でも派手でもありませんが、「整える」「いたわる」「無理をしない」という、とても大切な考え方に入れられています。

「一年の計は元旦にあり」ということわざもありますね。一年の計画は元日の朝に立てるべきであるという意味です。また、そこから転じて、物事を成功させるためには最初の計画や準備が最も重要なという教訓を指します。



普通科 柴山美ゼミ「異文化交流施設見学」

12月のとある日のCルーム集合写真♪



「一年の計は元旦にあり」の由来は、中国の明時代の文人、馮應京（ふうおうきょう）が著した『月令広義（げつれいこうぎ）』の一節にあるとされています。この書物の中では、人生の節目における計画の重要性が「四計」として説かれており、その一文に「一年の計は元旦にあり」と記されています。なお、江戸時代の儒学者である中根東里の言葉としては「一年の計は春にあり」と伝わっているなど、時代や人物によって細かな表現の違いが見られます。日本では、戦国時代の智将・毛利元就の教訓としても有名です。元就は、一日の計は朝、一年の計は元旦、そして一生の計は立志（志を立てること）にあると説き、常に先を見据えた準備を怠らないよう子孫を戒めました。

これらのことから、「一年の計は元旦にあり」とは、単に新年の抱負を述べるだけでなく、何かを開始するにあたって安易な気持ちで臨まず、しっかりと見通しを立てることの重要性を示唆したものであるといえるでしょう。

月末には、普通科の定期考查や福祉科の施設実習があります。生活学科の学科発表会で、心が動くAルームの生徒もいるかもしれません。目の前に課題があったり、目標があったりするならば、まずはその第一歩となる行動をとりましょう。そしてその行動を続けていくと計画が必要になり、道が拓けていくと思います。ぜひ、充実した2026年を。